

掲載日 (2024/5/8)

書籍の概要

本書は、アメリカ最大にして、最も選抜制の高い公立研究大学であるカリフォルニア大学において、公的機関の目的と将来に関する歴史的・今日的課題を包括的に論証したものである。その内容は人種、ジェンダーおよび出身階級などにより大きく影響を受けることになる大学への衡平なアクセスに関する議論と実践、大学自治を巡る攻防、標準化テストの導入への対応、さらには民営化とグローバル化が大学に与える影響など、多岐にわたる。

アメリカは世界に先駆けて高等教育の大衆化を実現させてきたが、今日においては大学へのアクセスと卒業率は低下し、特に若い学生の間でそのことが顕著になっている。また EU や OECD の主要加盟国、中国、インドなどの新興経済大国からも高等教育制度改革の分野で挑戦を受けていると著者は警告をしている。質が高く、アクセスが保証されている高等教育システムという「アメリカの優位性」は、グローバル経済の中で今後も維持していくことができるのか。わが国の高等教育改革を論じていくうえでも、カリフォルニア大学の実践は貴重な知見を与えてくれるだろう。

著者から一言

米国の大学入試は入試改革の理想と持ち上げられる向きもあるが、実際には、アファーマティブ・アクションを巡る政治闘争である様相が濃い。本書は、カリフォルニア大学に焦点をあて、大学設立から、現在に至るまでの入試改革の軌跡が描かれている。

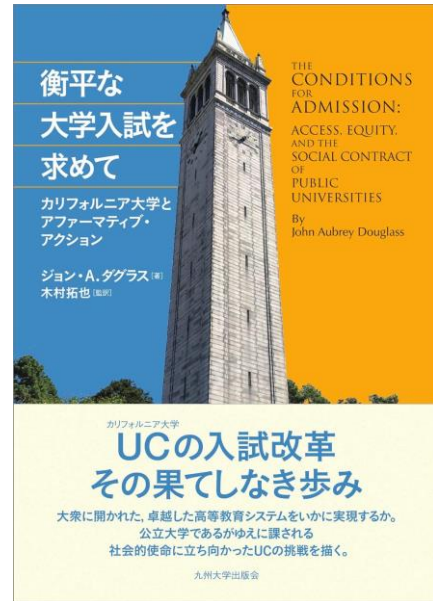
人間環境学研究院 木村拓也

【お問合せ先】

九州大学 人間環境学研究院 木村拓也 (キムラ タクヤ)

E-Mail : kimura.takuya.329*m.kyushu-u.ac.jp

[*を@に換えてください]



衡平な大学入試を求めて カリフォルニア大学と アファーマティブ・アクション

ジョン・A. ダグラス / 木村拓也 監訳

九州大学出版会 / 466 ページ / 2022 年 8 月出版

目次

第 1 部 公立大学の設立と社会契約の誕生

- 第 1 章 公立大学運動とカリフォルニア
- 第 2 章 高等教育システムの構築と大学進学拡大
- 第 3 章 包摂、排除、そして人種の問題

第 2 部 進学需要をマネジメントする大学と第二次世界大戦後の時代

- 第 4 章 マスタープラン、SAT、および進学需要のマネジメント
- 第 5 章 対抗する二つの勢力——標準テストとアファーマティブ・アクション
- 第 6 章 あらゆる行為に対する反応——民族、バッキー判決、および社会契約再論

第 3 部 衡平、アファーマティブ・アクション、および試験実施を巡る現代の争い

- 第 7 章 カリフォルニアのアファーマティブ・アクションを巡る攻防
- 第 8 章 第一の余波 ——アウトリーチ活動と包括的審査
- 第 9 章 第二の余波 ——アトキンソン総長と SAT の対決

第 4 部 社会契約の範囲内なのか？——ポストモダンの世界と高等教育の優位性

- 第 10 章 危機と機会 ——大学の自治、個人業績、および営利民営化
- 第 11 章 衰退するアメリカの高等教育の優位性